



自然に笑顔があふれ 明るい未来をひらくまち 砂川市



砂川市基礎データ

総人口	16,169人 (R 3.12末現在)	製造品出荷額	26,704百万円 (R 2 工業統計)
高齢人口（高齢化率）	6,418人 39.69% (R 3.12末現在)	卸・小売年間販売額	47,138百万円 (H28経済センサス)
世帯数	8,678世帯 (R 3.12末現在)	一般会計規模	13,110百万円 (R 3 当初予算)
人口密度	205.5人／km ²	市の花	すずらん（キミカゲソウ）
面積	78.68km ²	市の木	ななかまど
農業産出額	2,510百万円 (R 1 農業統計)		

砂川市の紹介

砂川市は、札幌市と旭川市のほぼ中間に位置し、東西に約11.3km、南北に約12.7km、総面積は78.68km²、人口約1万6千人の緑豊かな公園都市です。市街中心部は平地地帯と石狩川の間に南北に細長く展開しており、中央を国道12号のほか、道央自動車道とJR函館本線が縦貫、平成27年には、砂川SAスマートインターチェンジが開通するなど、札幌圏への通勤・通学を含め、道内各地への交通アクセスに優れています。

昭和49年に緑化都市宣言を行い、さらに昭和59年に環境庁から道内初のアメニティ・タウン（快適環境都市）の指定を受けて以降、「公園の中に都市がある、美しいまちづくり」を推進したことによって、市民一人あたりの都市公園面積が日本一となっており、特色のある遊具が揃う「北海道子どもの国」、満開の桜が楽しめる「北光公園」、雄大な景色が堪能できる河川空間「オアシスパーク（砂川遊水地）」など憩いの場を数多く有しています。

また、北海道子どもの国敷地内には、高速道路および一般道のどちらからでも立ち寄る

ことができ、地元をはじめ全道各地の特産品が並ぶ「砂川ハイウェイオアシス館」に多くの観光客が訪れているほか、日本で唯一の馬具メーカー「ソメスサドル」、北海道を代表する菓子メーカー「北菓楼」、世界に羽ばたくナチュラルスキンケアブランド「SHIRO」など、全国規模で活躍している企業がまちの賑わい創出の原動力となっています。



特色ある遊具が揃う北海道子どもの国

平成22年に中空知地域の中核病院として地域センター病院に指定されている砂川市立病院のリニューアルが行われ、診療科目28科に病床数498床を有し、24時間対応の救命救急センターや先進的な医療設備の導入に加え、屋上のヘリポートにてドクターヘリによる搬

送にも対応するなど、高度急性期医療を中心に担っており、さらに小児・救急・周産期医療から在宅医療まで、あらゆる疾患に対応できる機能を集約し、市民の暮らしを支えています。



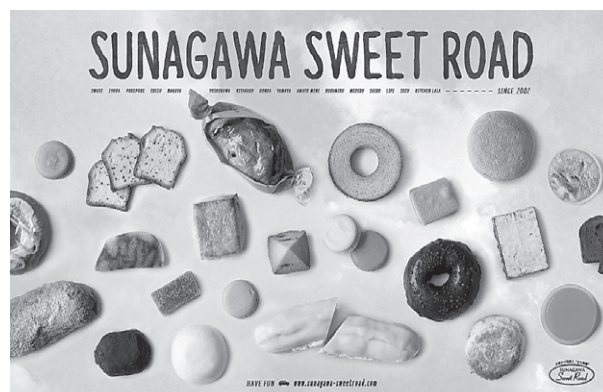
市民の暮らしを支える砂川市立病院

お菓子をモチーフにしたまちづくり 「すながわスイートロード事業」

砂川市では、まちづくりの指針となる「砂川市第5期総合計画」において、市内の魅力なお菓子屋さんを原動力とし、まちのイメージアップと市内外消費者の誘致につなげようとする構想を掲げ、国道12号を中心に点在する菓子店やカフェを「すながわスイートロード」と名付けるとともに、平成14年に商工団体、菓子組合等と連携して「すながわスイートロード協議会」を設立しました。

協議会では、18店舗の加盟店と連携を図りながら、「すながわスイートロード」の知名度及びブランド力の向上を目的とした様々な活動が行われており、お菓子づくり体験をはじめ、お菓子の試食ができるイベントの実施、まちなか回遊を促進するスタンプラリーの開催や各種PR活動など地域を挙げた取り組みに加え、砂川市が平成27年に中小企業地域資源活用促進法に基づく「ふるさと名物応援宣言（すながわスイーツのブランド化促進）」を行い、連携した事業を展開したことによって、道内外から多くの観光客が訪れるように

なりました。



すながわスイートロードの啓発ポスター

河川空間オアシスパーク（砂川遊水地）を活かした地域の活性化

平成7年に完成したオアシスパークは、豪雨災害からまちを守る洪水調整施設として重要な役割を担っていますが、一方で、災害の無い通常時は、四季折々の景観を楽しむことができる水辺のレクリエーションエリアとして、水面では魚釣り（冬はワカサギ釣り）やウインドサーフィン、周囲堤や多目的広場では、ウォーキングや自然散策などが満喫できる河川空間となっています。また、遊水地管理棟では、オアシスパーク内で利用できるサイクリング用自転車の貸し出しを行っており、多くの方に利用されています。

砂川市では、これら河川空間をより魅力的なものとし、まちの賑わいや地域の活性化につなげる取り組みを推進する団体として、平成30年に官民連携の「オアシスパークからゆめまちづくり協議会」を設立しました。

協議会では、オアシスパークの効果的な利活用に向けた検討を行うとともに、具体的な方向性を示した「かわまちづくり計画」を策定、同年に国土交通省の「かわまちづくり支援制度」に登録され、令和元年から本計画に基づく国のハード整備が始まっており、さらにソフト事業を進めやすい環境づくりとして、令和2年に北海道開発局より「都市・地域再

生等利用区域」の指定を受け、民間事業者による営利を目的とした活動が可能となっています。

※制度登録・区域指定の実施主体は砂川市



オアシスパークの水面利用

異業種連携によるまちづくり

砂川市では、持続可能な地域を目指すため、地域ブランドプロジェクト「安心やすらぎ共和国 OASIS REPUBLIC - SUNAGAWA BASE-」を行っています。

今後とも、少子高齢化や人口減少による地域経済の縮小は避けられませんが、その影響を緩やかなものにし、現在の豊かさをできるだけ維持していくため、モノ（商品）づくり、コト（観光周遊・イベント）づくり、ヒト（地域の担い手）づくりを通して、産官学金（市内外を問わず40事業所45名）の連携で「地域が稼ぐ力」を身に着けるための取り組みを進めています。

四季折々のイベントの開催

砂川市では、まちの賑わいや地域の活性化を目的とした様々な取り組みが多く、市民団体によって行われています。春には、満開の桜が楽しめる「すながわ緑と花の祭典」が北光公園で、夏には、打ち上げ花火が夜空を彩る「ラブ・リバー砂川夏まつり」や石狩川への愛情を育む「石狩川下覧権～夏の夕べ～」

よさこいソーランで地域を盛り上げる「THE祭」がオアシスパークで開催されるなど、魅力的な公園を舞台にしたイベントが数多く催されています。

また、秋には、中空知の食を堪能できる「中空知大収穫祭」、冬には赤穂浪士四十七士のお祭り「北海道義士祭」や砂川市の無形民俗文化財として伝わる「街頭もちつき」など、地域資源を活かした四季折々のイベントやお祭りがまちを盛り上げています。



赤穂浪士四十七士のお祭り北海道義士祭

駅前地区整備による賑わい創出

砂川市では、まちの中心部に位置する駅前地区に賑わい創出に寄与する施設整備を進めています。

基本コンセプトを「賑わいと魅力を生むまちの居場所」とし、施設内や広場でもくつろげる空間を設け、カフェ等も設置することで市民の居場所となるような施設を目指すとともに、イベントでも利用可能な施設とします。また、商工会議所や観光協会が入居し、それぞれ起業・経営支援の相談や観光情報等の発信が行われる予定です。



イメージ図（令和6年度完成予定）

砂川市の四季



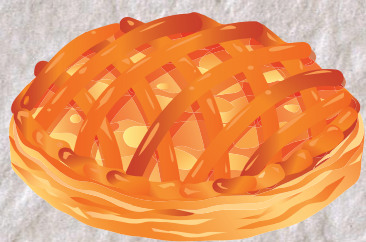
【春】桜の下で賑わう北海道子どもの国



【夏】夜空を彩る納涼花火大会



【秋】美しい紅葉が広がるオアシスパーク
(遊水地管理棟)



【冬】ワカサギ釣りで賑わうオアシスパーク